

# 委員会の動き

目指している鈴鹿市議会を調査しました。

伊賀市議会は平成18年5月に「議会のあり方検討委員会」を設置し53会場、83団体、500人の市民と意見交換を行い、積極的な情報発信と説明責任を果たしながら条例を平成19年3月制定しました。

条例では議会の公正性・透明性を確保し、市民と意見交換する議会報告会を定めている。議会は「言論の府」とし議員の自由討議を中心にした議会運営を行い審議結論は議員相互間の議論を尽くし合意形成に努め、各議員が建前でなく本音の意見交換行う「政策討論会」を定め、議会として共通認識の醸成を図る環境を条例で保障し議会の政策能力の向上を目指している。

鈴鹿市議会は、全員協議会を毎月開催し重要な案件、新条例の説明を受け政策力向上に努め

●各常任委員会では、議長の許可を受け、閉会中次の事務調査を行います。

委員会名	調査番号	調査件名
市民福祉委員会	調査第1号	救急医療について
経済建設委員会	調査第2号	農村観光都市の形成について

ている。議会基本条例については、特別委員会を設置し条例の必要性について議論を重ねられている。特に二元代表制を重視した議会の政策能力の向上を基本に独自の条例制定に向け調査研究を同時に行っている。今回訪問した市役所に富良野観光ポスター掲示の依頼や、電車の待ち時間を利用し、富良野をPRする試みを初めて行いました。



鈴鹿市議会大西議長と共に

## 予算特別委員会報告

### 平成20年度各会計予算・関連議案など全付託案件を全会一致で原案どおり可決

◆平成20年度各会計予算を審査する予算特別委員会は、3月10日、全議員をもって設置され、一般会計・7特別会計・2企業会計及びこれに関連する基金の処分や条例の一部改正など全17件の議案が付託されました。

◆審査は、3日間の日程で行なわれ、平成20年度の一般会計当初予算は前年対比で13・5%減となりました。国の地方財政対策などを踏まえ、富良野市財政健全化計画を基本に各事務事業の見直し、人件費の縮減等により、歳出の抑制を進める厳しい予算編成の中、各委員からは、福祉対策、農業・商工業

振興、教育振興などに活発な質疑が交わされました。

◆質疑終了後、討論の申し出はなく、採決の結果、付託された全案件が全会一致をもって「原案のとおり可決すべきもの」と決定いたしました。

委員長 東海林 剛  
副委員長 今 利一

### ■平成20年度各会計予算額

会 計	予 算 額	前年比
一 般 会 計	106億1000万円	13.5%減
特別会計	国民健康保険	27億9140万円 11.2%減
	介護保険	15億3190万円 4.7%増
	老人保健	3億0330万円 90.1%減
	後期高齢者医療	2億6190万円 —
	公設地方卸売市場	2140万円 2.7%減
	公共下水道	12億2770万円 55.7%増
企業会計	簡易水道事業	1億6660万円 52.0%増
	水道事業	7億0540万円 12.3%増
ワイン事業	7億6630万円 2.5%減	
合 計	183億8590万円	17.4%減